【学校教育目標】「感謝の心をもち、自ら学び、たくましく生きる子供の育成」

学校だより　堂崎っ子

第 11 号
令和 6 年 8 月 21 日
南島原市立堂崎小学校
校　長　　末吉　優

平和集会より

【校内掲示の一部】

８月９日は「長崎原爆祈念の日」で、平和集会を行い、原爆犠牲者への哀悼の意を捧げました。平和集会、各学級でのこれまでの取り組みを通して、戦争や争いのない平和な世界をつくるために、自分たちにできることを考えてきました。

79年前の1945年8月9日に、長崎市に原子爆弾が投下された。その結果、一度に約7万4千人の人が亡くなり、さらに多くの人が放射能や火傷などで苦しまれた。その後も、原爆症という病気で亡くなった人は数え切れない。

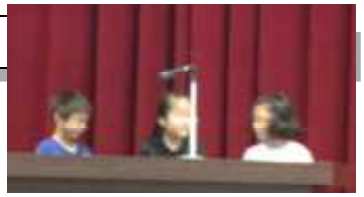
私たちは、今こうして平和集会を開いている。たてわり班で平和への願いを込め折り鶴を折ったり、各学級でDVDを見たり、平和に関する学習会を進めたりしてきた。そして、「この時代に」を歌い、調べ学習を行った4年生による平和学習の発表もあった。　私たちはなぜ、平和集会を行っているのでしょうか？　それは、原爆の悲惨さを忘れないため。そして、二度と戦争や原爆が起こらないように願うため。　私たちは、平和で幸せに暮らしたいと思っている。しかし、それは当たり前のことではない。世界にはまだ戦争や紛争がある。核兵器や化学兵器などの恐ろしい武器もある。私たちは、そんな世界を変えていく力を持っている。　みなさんは、どうやって平和に貢献できると思いますか？

私は、まずは自分の身近なところから始めることが大切だと思う。例えば、友だちや家族と仲良くすること、違う意見や考え方を持つ人を尊重すること、困っている人や弱い立場の人を助けること、自分の感情や思いを素直に伝えること、そして、自分の夢や目標を持って努力することです。これらのことは小さなことかもしれませんが、それぞれが積み重なって大きな力になる。私たちは一人一人が平和をつくる人である。私たちは一人一人が平和を伝えないといけない。

【4年生の発表】

今日は、原爆投下から79年目の8月9日。この日を忘れずに記憶し続けよう。そして、この日をきっかけにして、平和について考え続けよう。私たちはみんなで力を合わせて、より良い世界を作っていけると信じている。

一学期終業式　【2年生発表から】



【Ｈ　さん】　一学期がんばったことは、水泳。宝探しや輪くぐりが楽しかった。
水中では、鼻を押さえなくても、潜れるようになった。次は、バタ足が上手になりたい。
【Ｓ　さん】　野菜(ｷｭｳﾘ･ﾅｽ･ﾋﾟｰﾏﾝ･ﾐﾆﾄﾏﾄ･ｶﾎﾞﾁｬ･ｽｲｶ･ﾋﾟｰﾅﾂ)を育てたことが楽しかった。黄色い花が咲き、指ぐらいの大きさのうりの赤ちゃんを見つけたとき、とてもかわいくてうれしかった。とれたてのキュウリは、みずみずしくてとてもおいしかった。
【Ｈ　くん】　生活科で生き物を見つけて育てたことが楽しかった。2年生のみんなで、カブトムシ、クワガタ、メダカ、ダンゴムシ、カマキリ、バッタを育てた。どれもとてもかわいかった。　Rくんが、クワガタやカブトムシの取り方を教えてくれた。ストッキングにゼリーを入れて、仕掛けておくと、ゼリーに飛んでくるそうだ。夏休みにもカブトムシやバッタを家で育てたい。

パリオリンピックを通して思うこと

世界中に興奮と感動をもたらしたパリオリンピックが幕を閉じました。日本選手に限らず、世界中のアスリートが、様々な喜怒哀楽の表情を見せたのも記憶に新しいと思います。

各国の代表にならなければ、オリンピックという大舞台に立つことができないのはもちろんですが、これまで積み重ねてきた努力の成果を発揮できた選手、残念ながら十分な力を発揮できなかった選手、様々でした。

それぞれに、感動を与えてもらいました。　選手の言葉が、新聞等にありましたので一部を紹介します。

□卓球女子シングルス：早田ひな選手　（左手の負傷を抱えながら3位決定戦を制す）
「神様にこんなタイミングでいじわるされるとは思わなかった」「よく頑張った、左手」
□スケートボード男子ストリート：堀米雄斗選手（最後のトリックで大逆転し、2大会連続金メダル）
「(東京五輪後、思うような結果が出ず、ぎりぎりで日本代表に)　地獄のような3年間だった」　「1%の可能性を信じた」

選手を支えるスタッフがいて、血のにじむような努力を重ねてきたからこそ、選手たちが残す言葉には重みがあると感じました。

一方で、健闘むなしく敗れた選手・チーム、出場辞退の選手にSNS上での誹謗中傷があったというニュース、メディアにおいてふさわしくないコメント等があったことは残念に思いました。皆さんは、どのように受けとめられたでしょうか。

8月28日から開催される身体障害者による「パリ2024パラリンピック」でも、選手の活躍を期待するとともに、多くの感動を味わいたいものです。

学力と基本的生活習慣との関係（全国学力学習調査結果が発表されました）

学力の高さは基本的な生活習慣と比例しており、挨拶や手伝いなどとの関連性が高いそうです。そのため、学校と家庭が協働的に改善していかなければなりません。特に、学習習慣は大切です。「気付き・考え・行動する子供の育成」を目指しているところですが、子供たちが、いかに自分から学習しようとするか、落ち着いた環境の中で計画的に学習することが求められます。家族の中で励まされ意欲を喚起する環境、携帯電話などの影響が少ない環境で学習することが重要です。

文科省は全国学力テストの結果を公表し、SNSやゲームなどの利用時間が長い児童生徒ほど、正答率が低いことが分かりました。併せて、生活や学習習慣について調べるアンケート調査について、1日当たりのゲーム時間が1時間以上と回答した割合は小・中学校ともに7割以上、SNSや動画の視聴時間は小学校で5割、中学校で8割弱が1時間以上と回答しました。

3時間以上と回答したのは小6で20.5%、中3で32.1%で、利用時間が長い生徒ほど正答率が低いことが分かりました。

一方、ゲームは「全くしない」、SNS・動画視聴は「30分より少ない」と回答した児童生徒は最も正答率が高い結果となりました。